

旬花報

18号

令和2年3月31日

発行
群馬県立女子大学
同窓会事務局
370-1193 佐波郡玉村町上之手1395-1
TEL:0270-65-8511
URL:https://shiu-kai.com/



同窓会長
野村留美子

令和初の紫桜賞決定

国際コミュニケーション学部 4年

安藤 舞さん
飯塚 美沙さん

同窓会会員の皆様におかれましては、日頃より暖かいご支援、ご理解をいただき、心よりお礼申し上げます。
群馬県立女子大学は、令和2年度に開学40周年を迎えます。一期生としては、感慨深いものがあります。そして同窓会・紫桜会は平成11年に設立して、22年目になります。

私たち同窓会役員は、紫桜賞の授与や大学祭での同窓会カフェの開催などで学生の皆様とお会いする機会がありますが、40周年を機にこれまで以上に同窓会に関心を持っていただき、相互に親睦を深められるようにと、切に願っております。

後輩の皆様の活躍は、私たち卒業生の誇りでもあります。今回も学生の新たな挑戦と、その素晴らしい成果をご紹介できることを大変嬉しく思います。今後も学生の皆様が、学生時代にしかできない体験を重ねていく姿を楽しみにしております。

安藤 舞さんは、3年生の頃から一眼レフとマッキントッシュコンピュータを用いて本格的に映像を撮影し、編集する技術を勉強してきました。川越市の動画コンテストや、森永CMコンテストなど、制作した動画をさまざまなコンペティションへ積極的に応募。その甲斐があつて、昨年11月23日に開催された「やお80映画祭2019」において、学生部門でグランプリを受賞しました。

やお映画祭は、大阪府八尾市で開催されている映画作品コンテストです。「やお映画部門」「フリー映画部門」「学生部門」があり、それぞれジャスト80秒の映画作品を制作し、応募します。安藤さんの作品「BBA☆ロックンロール」は、審査員の方々から「80秒という短い時間ではどうしてもセリフで説明してしまいがちだが、この作品は切り替わる映像だけで語っていき、

最後はしっかりとメッセージを伝えてくるという構成が素晴らしい」という評価をいただきました。

飯塚 美沙さんは、安藤さんが動画制作を始めた当初から常に撮影のサポートを行い、今回受賞した作品にも出演しました。この快挙は飯塚さんのアドバイスがあつてこそその受賞でした。

グランプリの副賞として、今年1月には八尾市を拠点とする企業のCMを製作しました。このCMは一年間、八尾市の映画館で上映されます。

また、この受賞を受けて、二人はボランティアとして県立女子大のPR動画も制作しました。大学広報委員会の協力により撮影が進められ、2月に完成しました。学生や群馬県知事も出演しており、本学の魅力が伝わる作品となっています。



「同窓会カフェ」開催

令和元年11月3日(日)

同窓会 紫桜会の活動を広く知ってもらうための試みとして、今年度も錦野祭で「同窓会カフェ」を開催しました。通算6回目、美学美術史学科OGアートチームの展示会との同時開催を開始してから5回目となります。

昨年に引き続き30号教室をお借りしました。卒業生のみならず、地元の方や、大学を見学にいらした受験生や親子連れも多く、130名もの来場がありました。無料提供の飲み物お菓子はもちろん、OGの絵画などの展示も大好評でした。



住所等 登録・変更

フォーム開設

Garnet(卒業生・修了生、登録・変更フォーム)を開設しました。住所、名前等の変更ができますので、同窓会員の皆様の入力をお待ちしています。大学ホームページ、または下記QRコードからご登録ください。同窓会ホームページからもリンクしています。



活躍する卒業生

加部鈴子さん

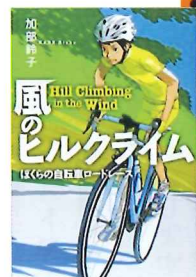
(平成10年卒)

数年前の同窓会役員会の中で、「児童文学で受賞し、本を出版した卒業生がいる」と話題になりました。聞けば、県内の役場で正規の職員として働き、お子さん二人を育てながら作品を書いたとのこと。なんとエネルギーシユなのか、と驚いたのを覚えています。

今回は、東吾妻町出身で児童文学作家の加部鈴子（かべりんこ）さんを紹介します。

加部鈴子さんは、2011年に岩崎書店主催の「第10回ジュニア冒険小説大賞」を受賞し、「転校生は忍びのつかい」でデビューしました。

大学時代は近代文学を専攻しており、児童文学とはあまり縁がなかったそうです。しかし、2人目の育児休暇中、空いた時間を使って小説を書くように思い立ちました。初応募作品は1次選考まで進み、それ以降児童文学の道にはまっていきました。長男の読書嫌いを克服させようと、大好きな「忍者」をテーマにして書いた作品が、受賞作の「転校生は忍びのつかい」です。この作品は、神奈川県や埼玉県で推薦図書として選定されるなど、児童文学として高い評価を得ています。



執筆する上で、お子さんの存在は大きいようで、2作目「サクラ・タイムトラベル」（岩崎書店）も「時間旅行の本を読んでみたい」という長男の言葉がヒントになっているそうです。この作品は、県立女子大学での実習体験や大学周辺の桜並木を盛り込み、小学5年の男女二人が歴史博物館から江戸時代にタイムスリップするお話です。

3作目の「風のヒルクライム」は赤城山ヒルクライムのコースをイメージした架空の自転車レースを通して、友達や家族との絆を深めていく男子中学生を描きました。1・2作と同様、3作目の主人公も執筆時の長男と同じ年齢に設定するなど、わが子の成長と重ね合わせています。

それぞれの作品の中で、群馬の風景が描写されており、加部さんの「群馬の良さを全国に伝えたい」という気持ちが表れています。

また、大河ドラマ「真田丸」が放送された2016年には、東吾妻町の

町おこしイベント「岩櫃城 忍びの乱」のメイン会場で、デビュー作品をモチーフに制作されたミニドラマが上映されました。以来、町おこしのイベントにも積極的に協力しているそうです。

2019年の夏には、地元の豪商・加部安左衛門の功績を伝える動画のシナリオを手がけました。

加部安左衛門は、1783年（天保3年）の浅間山大噴火で地域の住民を救ったとされています。「加部安」の愛称で親しまれ、動画に登場するのは7代目。約31分の動画のタイトルは「加部安の時計と天明の祈り」で、紙芝居仕立ての映像になっています。浅間山大噴火で家族を失った吾妻川流域の住民の苦悩や、被災者が苦労して作った農産物を加部安が破格の値段で買い取り、助ける様子を、主に住民の視点で描写しています。動画には、加部安が「一日一日を後悔しないように前に進むため」と傍らに置いた高価な時計が暗示的に登場しています。加部さんは時計に「彼の正直さを象徴的に表現した」と語っています。

文学賞の受賞をきっかけに、活躍の場を広げている加部さん。今年4月中旬には待ちに待った4作目「本能寺の敵キリサク手裏剣」（くもん出版）の出版が決定されたということなので、大変楽しみです。

今後ますますの活躍をされるよう、応援していきたいです。

「に参加ください」

4年に一度の懇親会

2000年に開催された第一回目の懇親会は、大学食堂を使って行われました。数年前から「オリンピックイヤー」に開催しており、今年も次のとおり予定しています。

秋ごろにはご案内通知を発送する予定です。恩師やお友達同士で誘い合わせてご参加ください。

日時：2020年12月12日（土）

12時～14時

会場：ホテルメトロポリタン高崎

会費：7,000円

■編集後記■

大学は今年で40周年。創立当初からいらした先生は皆さん退官を迎え、時の移り変わりを感ぜずにはいられません。しかし、数年前にS先生が「毎年学生は入れ替わるのだけど、共通した気質がある」とおっしゃったのが忘れられません。きっと創立当初から変わらず、脈々と受け継がれているものもあるのだと思います。

2011年に東日本大震災が起こった際には「前代未聞の出来事だ」と思いましたが、今年は新型コロナウィルスの流行といった不測の事態が起きまじ、不安の中にも今後の流れが全く見え、不安の中にも乗り越えていければと思います。